



2026年7月7日

各 位

会社名 株式会社日本製鋼所
代表者名 代表取締役社長 松尾 敏夫
(コード番号：5631 東証プライム)
問合せ先 総務部長 寺田 健二
(電話：03-5745-2001)

中期経営計画「JGP2028」アップデートの策定に関するお知らせ

当社は、2029年3月期を最終年度とする5カ年の中期経営計画「JGP2028」のアップデートについて、本日開催の取締役会において決議いたしましたので、お知らせいたします。

「JGP2028」アップデートの概要については、添付資料をご参照ください。

なお、個別事業戦略の詳細等については7月13日（月）に公表を予定しております。

以 上

Update
2026

中期経営計画

JGP2028

2025年3月期 – 2029年3月期

アップデート 概要

株式会社日本製鋼所

2026年7月7日

JSW

【ご注意】

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

アップデートの概要

市場環境の変化を踏まえ事業戦略をアップデート、財務目標を上方修正



事業セグメントの構成と主要製品

事業セグメント	産業機械事業				素形材・エンジニアリング事業		その他事業
生産拠点	広島 横浜 名機（愛知）				室蘭		
サブセグメント	樹脂製造・加工機械	成形機	防衛関連機器	電子デバイス他	素形材製品	エンジニアリング他	
主要製品	<ul style="list-style-type: none"> ● 造粒機 ● 二軸混練押出機 ● フィルム・シート装置   	<ul style="list-style-type: none"> ● プラスチック成形機（射出成形機、中空成形機） ● マグネシウム成形機  	<ul style="list-style-type: none"> ● 各種火砲 ● 装甲車両 ● ミサイル発射筒   <p>(写真：海上自衛隊提供)</p>  <p>(写真：陸上自衛隊HPより引用)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● レーザ応用装置 - FPD製造装置 - パワー半導体製造装置 ● プレス機 ● 真空ラミネーター ● 成膜装置  	<ul style="list-style-type: none"> ● 発電機・蒸気タービン用ローターシャフト ● 原子炉・蒸気発生器部材 ● クラッド鋼板   	<ul style="list-style-type: none"> ● 鋼製水素蓄圧機 ● 各種非破壊検査  	<ul style="list-style-type: none"> ● フォトニクス 
主なアプリケーション	<ul style="list-style-type: none"> ● 各種プラスチック ● バッテリー、食品包装、光学機器、半導体デバイス 	<ul style="list-style-type: none"> ● 自動車、電気・電子、日用品・雑貨、IT関連機器等 	<ul style="list-style-type: none"> ● 防衛装備品 	<ul style="list-style-type: none"> ● OLED/LCDパネル ● プリント基板、半導体パッケージ基板 	<ul style="list-style-type: none"> ● 蒸気タービン・発電機（火力・原子力） ● 原子炉圧力容器等（軽水炉、高速増殖炉、高温ガス炉、核融合炉等） 	<ul style="list-style-type: none"> ● 通信・光学機器等 ● 電子機器 	
主な顧客市場	石油・ガス化学	プラスチック製品	防衛省	ディスプレイパネル	重電機器	再生可能エネルギー等	通信・電子機器
	自動車部品		海上保安庁	半導体	オイル・ガス産業		

INDEX

PART 1

2033年度に目指す姿とJGP2028

PART 2

JGP2028の進捗

PART 3

JGP2028のアップデート

PART 1

2033年度に目指す姿と JGP2028

PART 2

JGP2028の進捗

PART 3

JGP2028のアップデート

2033年度に目指す姿

Purpose
(パーパス)

Material Revolution®

「Material Revolution®」の力で
世界を持続可能で豊かにする

JSW Group Value Creation Process (価値創造プロセス)

当社グループは、コア・コンピタンスをより一層磨き、社会課題を解決する産業機械と新素材を開発・実装する「Value Creation Process (価値創造プロセス)」により、社会価値の創出と持続的な企業価値の向上を同時に実現していきます

価値創造と社会課題の解決

プラスチック資源
循環社会の実現



低炭素社会への
貢献



超スマート社会への
貢献



マテリアリティマネジメントによる 社会課題の解決

持続的成長に向けた経営基盤の強化

人的資本の強化と
DEI&B



未来への投資と
イノベーション
マネジメント



JSWグループ
における
ガバナンス強化



DEI&B
ダイバーシティ、エクイティ、インクルージョン&ピロギング

社員一人ひとりの力が最大限に発揮されるためには、「従来のD (多様性) & I (包摂性)」に加え、「E (公平性)」や「B (従業員が自分らしくいられる環境づくり)」が不可欠との考えから、マテリアリティの「D&I」を「DEI&B」に変更しました

サステナビリティ目標

社会課題を解決する
産業機械と新素材の
開発・実装を通じて
持続可能で豊かな世界
の実現に貢献する

2033年度に目指す姿



財務目標

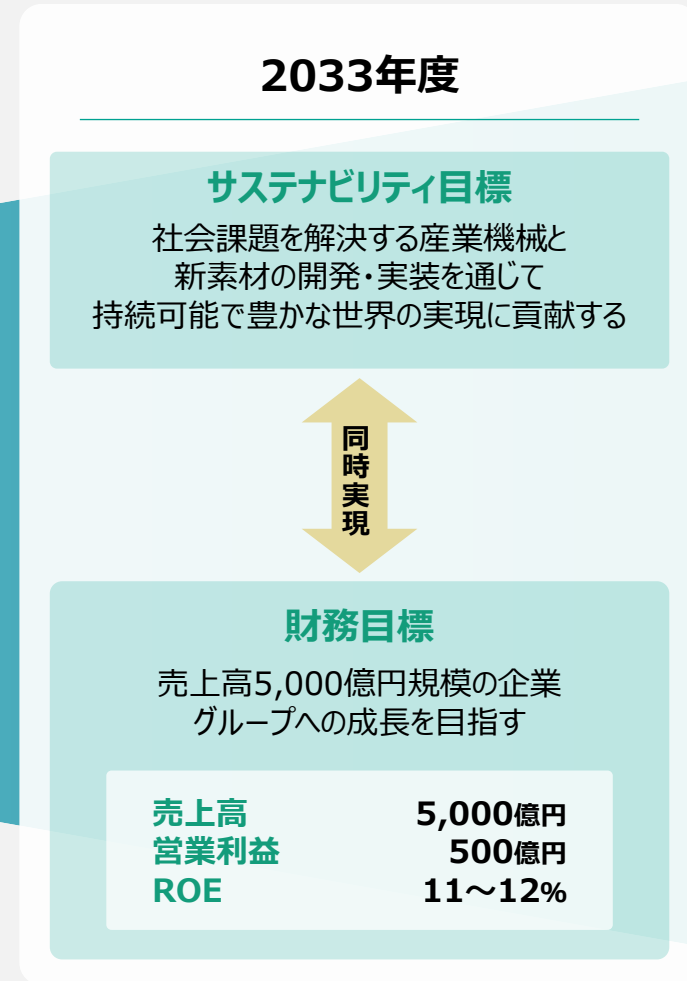
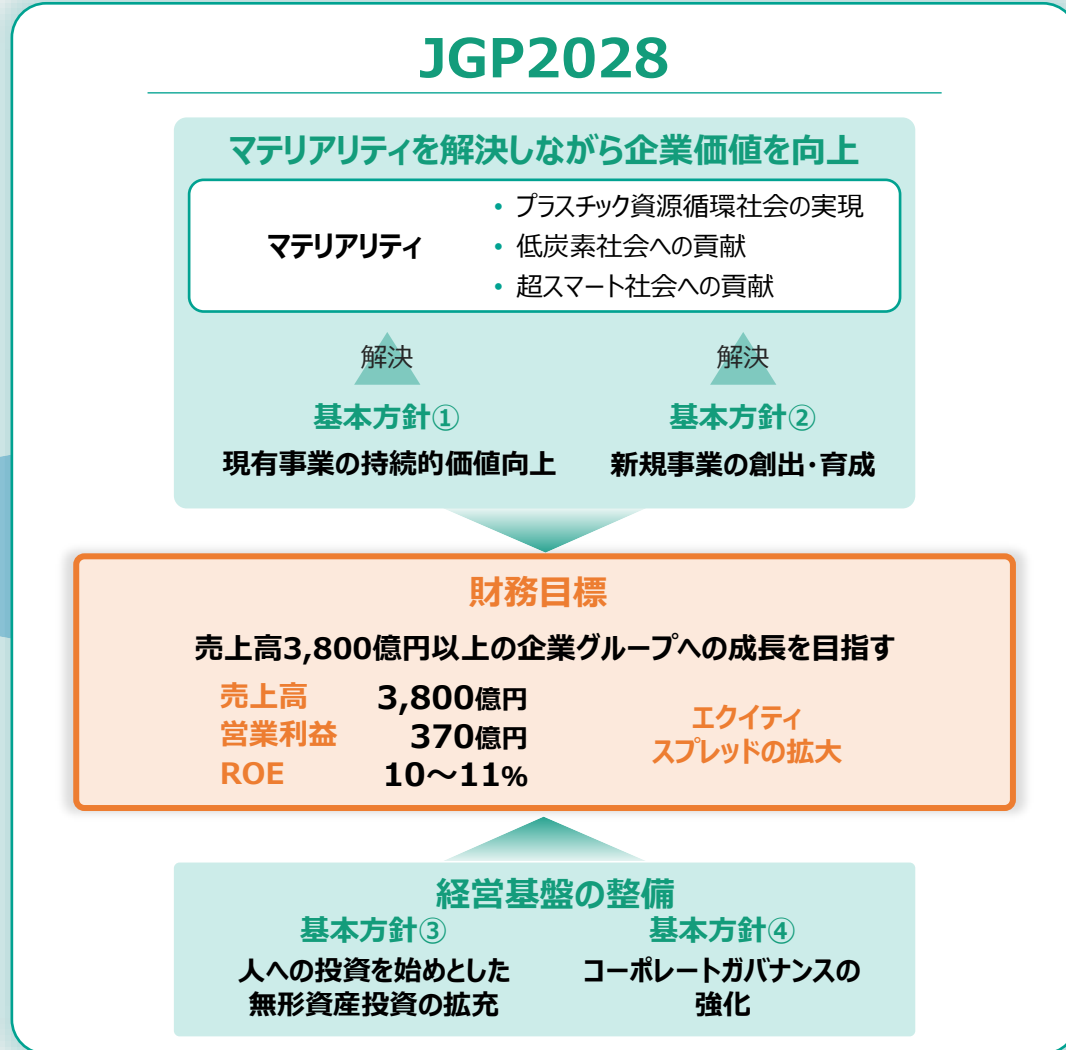
売上高5,000億円規模の
企業グループへの成長を目指す

売上高	5,000 億円
営業利益	500 億円
ROE	11~12%

Vision
(ビジョン)

社会課題を解決する産業機械と新素材の開発・実装を通じて
全てのステークホルダーに貢献する

新たな成長に向けた変革と挑戦：2033年度に目指す姿の実現に向け、マテリアリティを解決しながら持続的に企業価値を向上



PART 2

JGP2028の進捗

PART 1

2033年度に目指す姿とJGP2028について

PART 3

JGP2028のアップデート

JGP2028 4つの基本方針 進捗状況

4つの基本方針	評価	25.3期～26.3期の進捗	
① 現有事業の 持続的価値向上	◎	広島製作所 樹脂機械製品の生産能力拡大	<ul style="list-style-type: none"> 第10組立・第3機械工場 竣工、第4機械工場を建設中（28.3期竣工予定） 樹脂機械ソリューション事業部を設置（26年4月）
		適地生産・相互補完による生産能力の拡大	<ul style="list-style-type: none"> 防衛：広島製作所 新組立工場竣工、室蘭・名機製作所での生産体制構築 拠点間での生産移管を機動的に実施
		現地生産の強化によるグローバル展開の推進	<ul style="list-style-type: none"> 二軸混練押出機(TEX)：韓国に新工場を建設(SM Platek社) グローバル戦略本部(26年4月)、インド エクスペリエンスセンターを設置
		室蘭製作所 素形材製品の生産能力拡大	<ul style="list-style-type: none"> 鍛錬用マニプレーターを設置 製鋼用二次溶解設備、機械加工用大型旋盤 更新・増設工事中（28.3期竣工予定）
② 新規事業の 創出・育成	○	<ul style="list-style-type: none"> 「超スマート社会への貢献」実現への重点投資を中心に研究開発活動を推進（研究開発費：2年間累計118億円） 革新技术の開発を担う、新たな研究開発拠点の用地を取得 窒化ガリウム（GaN）結晶、ニオブ酸リチウム(LN)結晶の早期事業化を目的とし、フォトリソ事業室を設置 	
③ 人への投資を始めとした 無形資産投資の拡充	○	人的資本戦略	<ul style="list-style-type: none"> 事業戦略に適合した多様な人材を、計画を上回るペースで獲得（新卒、経験者採用） エンゲージメントの向上を目指し、厚生労働省「くるみん」認定を取得
		DX戦略	<ul style="list-style-type: none"> 社内の生産性向上と顧客への新たなソリューション提供が順調に進捗 経済産業省より「DX認定事業者」の認定を取得
④ コーポレート ガバナンスの強化	○	役員報酬制度の見直し	<ul style="list-style-type: none"> 株式報酬比率を引き上げるにより、中長期的な企業価値向上に対するインセンティブ機能を強化
		取締役会、監査役会の多様性向上	<ul style="list-style-type: none"> 社外役員・女性役員比率を向上（社外取締役比率50%、社外監査役比率50%、女性取締役比率20%、女性監査役比率25%）
		政策保有株式の縮減	<ul style="list-style-type: none"> 26.3期：対連結純資産比率 11.8% → 27.3期：10%以下へ縮減予定

中期経営計画 JGP2028 財務目標の進捗

27.3期まで順調な進捗を予想

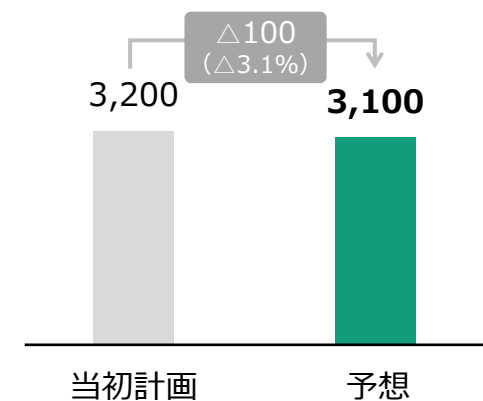


(億円)	24.3期 実績	25.3期 実績	26.3期 実績	27.3期		
				当初計画 (2024.6開示)	予想	予想 - 当初計画
売上高	2,525	2,485	2,748	3,200	3,100	△100
営業利益	180	228	253	260	270	+10
営業利益率	7.1%	9.2%	9.2%	8.1%	8.7%	+0.6PP
ROE	8.5%	9.7%	9.5%	9.0%	8.7%	△0.3PP
EBITDA	257	307	343	401	391	△10

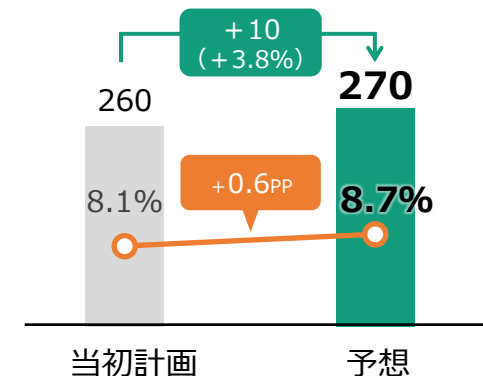
27.3期

(億円)

売上高



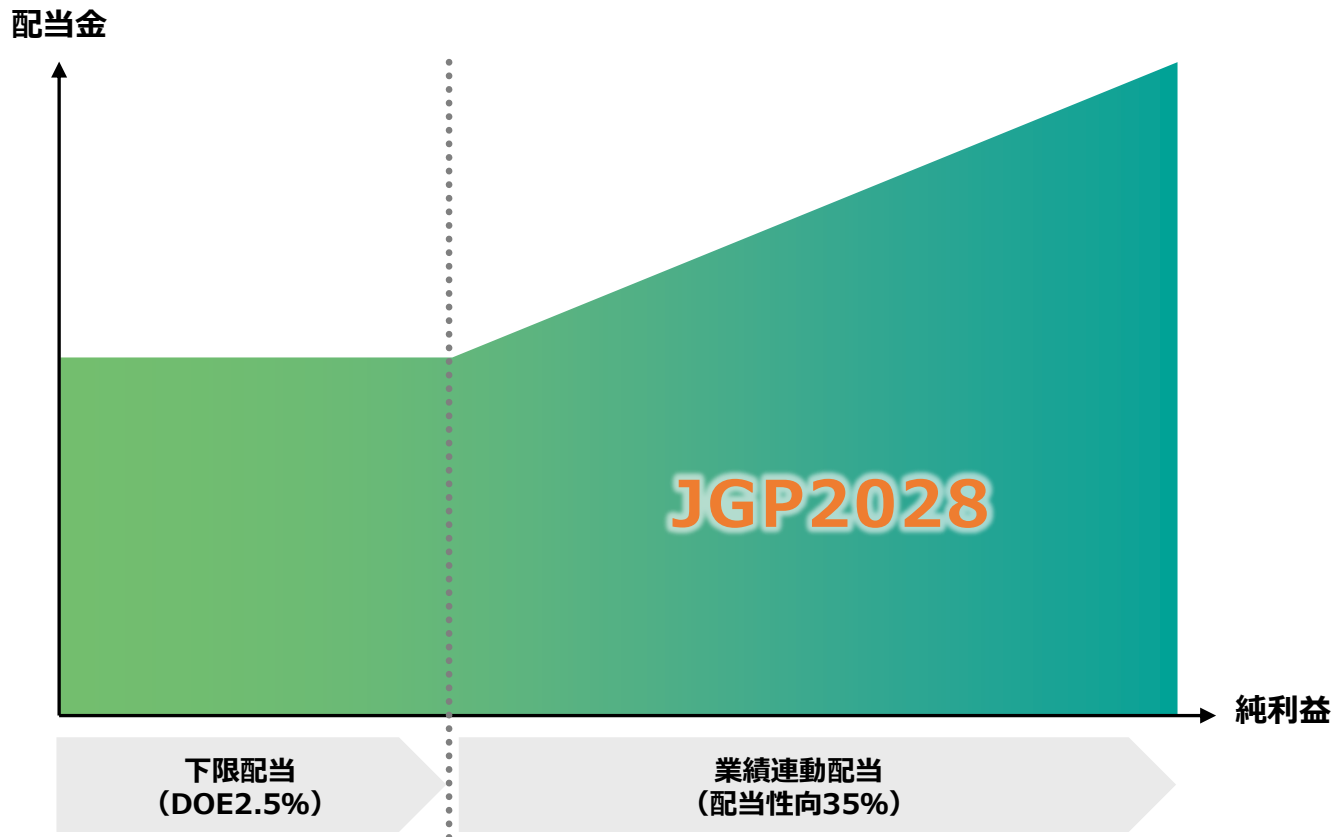
営業利益 / 営業利益率



配当方針

「連結配当性向 35% 以上」を目標とした上で、「DOE（連結株主資本配当率）2.5%」を下限に配当を実施

配当方針のイメージ



	24.3期	25.3期	26.3期	27.3期 予想
年間配当 (円)	59.0	86.0	92.0	92.0
配当性向 (連結)	30.4%	35.2%	35.2%	35.6%
DOE	2.7%	3.7%	3.7%	3.5%

PART 3

JGP2028のアップデート

PART 1

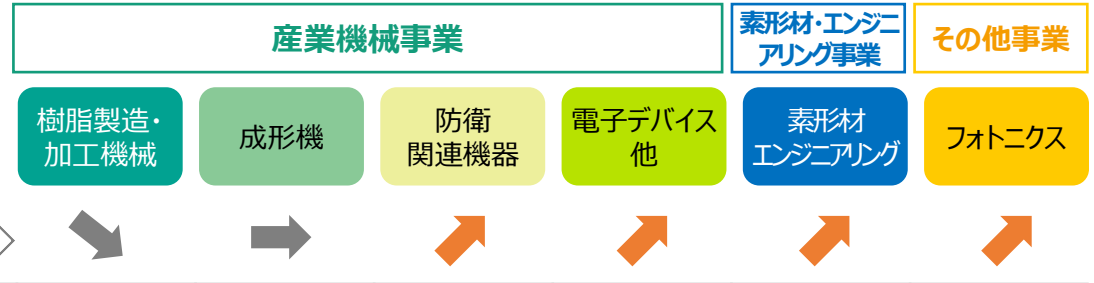
2033年度に目指す姿とJGP2028について

PART 2

JGP2028の進捗

中期経営計画 JGP2028 アップデートの必要性

主要製品の市場環境は、 中計策定時から大きく変化



		中計策定時からの市況変化					
		樹脂製造・加工機械	成形機	防衛関連機器	電子デバイス他	素形材エンジニアリング	フォトニクス
EV市場の成長減速	<ul style="list-style-type: none"> バッテリーセパレータフィルムは設備過剰に。需給バランスは緩やかな改善傾向にあるが、大きな期待はできない 自動車の設備投資はこれまで停滞、今後は一部メーカーによる増産投資を見込む 	◎ → ▲	○ → ▲				
地政学リスクの高まり	<ul style="list-style-type: none"> 経済のブロック化進展を受け、各国で投資姿勢の変化と一時停滞が発生 中国では投資回復の動き、インド他での市場成長を見込む 	○ → ▲					
	<ul style="list-style-type: none"> 防衛関連予算拡充の動きが続くなか、新規装備品のニーズが高まる 			○ → ◎			
エネルギー政策の変容	<ul style="list-style-type: none"> エネルギー安全保障と早期の安定電源確保に向けた現実解として、高効率火力発電需要が増大 中長期では、原子力発電需要も増大、継続の見通し 					○ → ◎	
AIの急速な普及 データセンターの増加	<ul style="list-style-type: none"> 計算資源の確保に伴い、火力・原子力発電と蓄電池（ESS: Energy Storage System）需要が増加 	▲ → ○				○ → ◎	
	<ul style="list-style-type: none"> AI、サーバー、通信等、データセンター関連需要が増加 <p>【関連する当社製品】 マグネシウム成形機、プリント基板用プレス機、パッケージ基板用ラミネーター、銅合金、高周波デバイス・光通信用各種結晶等</p>		○ → ◎		○ → ◎	○ → ◎	○ → ◎

中期経営計画 JGP2028 事業戦略の見直し

事業セグメント	市況変化	事業戦略
樹脂製造・加工機械	↓	<ul style="list-style-type: none"> 中国での需要回復を捉えると共に、インド・中東等、成長地域に経営資源を重点配分 セパレータフィルムの高性能化・生産性向上への需要を取り込む 設備投資による生産能力増強により、アフターサービス事業を伸長、収益力を向上
成形機	→	<ul style="list-style-type: none"> プラスチック成形機のグローバル化を加速、欧州でのシェア拡大とインドでの電動機拡販に注力 フィジカルAI向けマグネシウム成形機需要に対応、新機種投入により需要を取り込む
防衛関連機器	↗	<ul style="list-style-type: none"> 需要増大への対応として、適地生産・相互補完による一層の供給能力増強 防衛装備品の需要動向を踏まえた新規装備品の提案を強化
電子デバイス他		<ul style="list-style-type: none"> FPD製造用F-ELA装置の需要増大に対応、生産体制を整備し本体・アフターサービス需要の取り込みを強化 データセンター向けプリント基板製造用プレス機を拡販、次世代パッケージ基板製造用ラミネーターの開発を進める
素形材エンジニアリング		<ul style="list-style-type: none"> 高効率火力発電需要の増大に対応、タービン・発電機用ローターシャフト設備能力を1.5倍に増強（26.3期より実施中） 原子力発電需要の拡大と長期的な伸長に対応、生産能力倍増へ データセンター向けチタン銅の供給体制を構築、高水準の需要に応える（室蘭銅合金株式会社）
フォトニクス		<ul style="list-style-type: none"> 窒化ガリウム（GaN）結晶、ニオブ酸リチウム（LN）結晶の顧客評価・量産化対応を加速、早期事業化を目指す

財務目標のアップデート

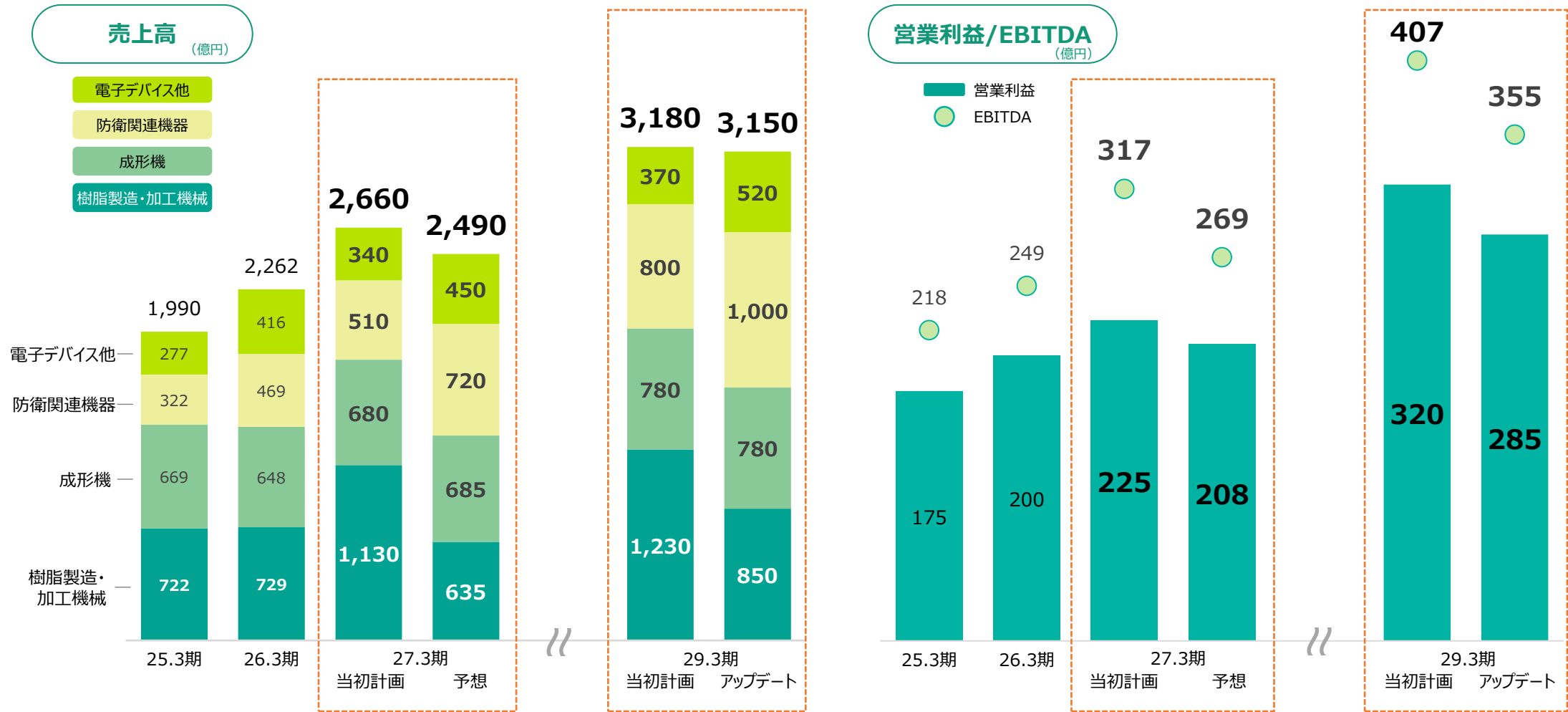
29.3期 財務目標

		当初計画比
売上高	4,000億円	+5.3%
営業利益	400億円	+8.1%
営業利益率	10.0%	+0.3PP
ROE	10~11%	-

	29.3期		
	当初計画 (2024.6開示)	アップデート	アップデート - 当初計画
(億円)			
売上高	3,800	4,000	+200
営業利益	370	400	+30
営業利益率	9.7%	10.0%	+0.3PP
ROE	10~11%	10~11%	-
エクイティスプレッド	2~3%	2~3%	-
配当性向	35%	35%	-
EBITDA	518	550	+32

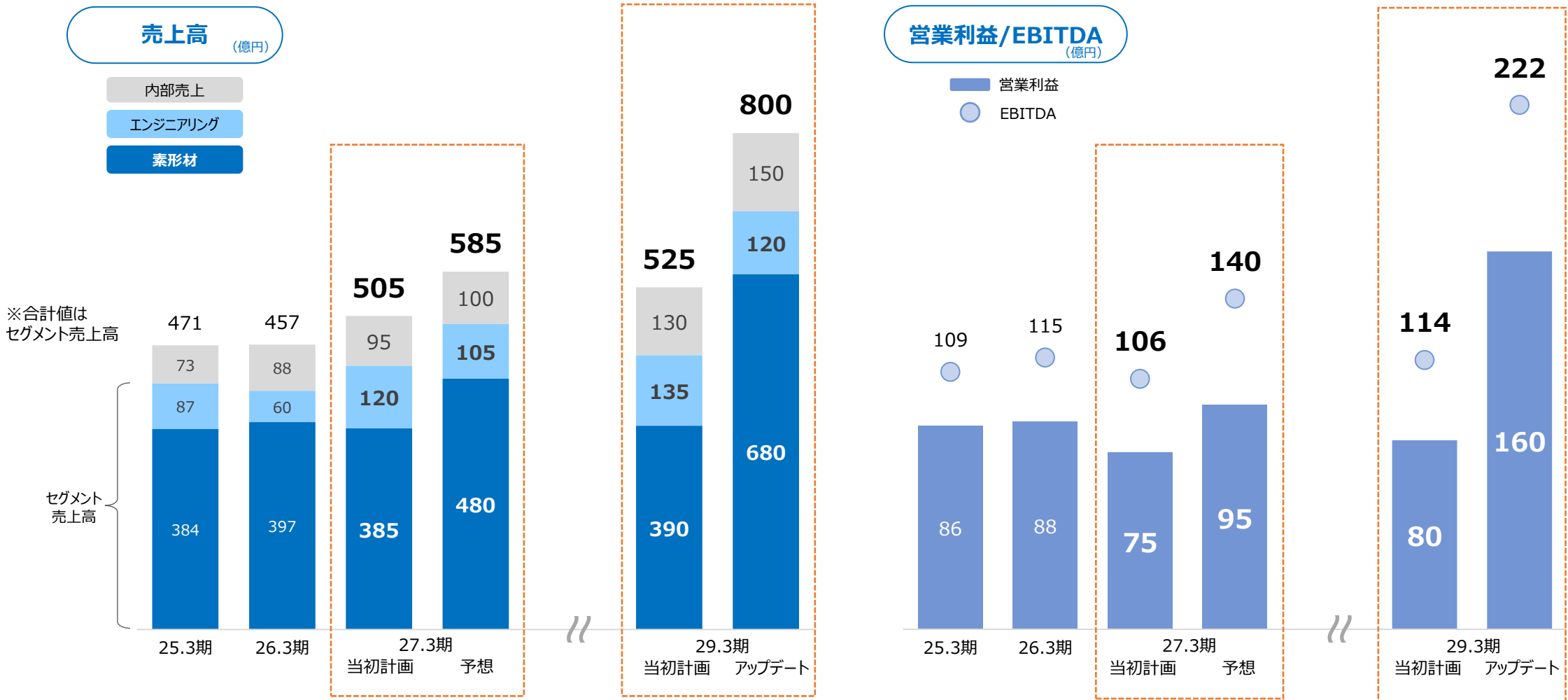
財務目標のアップデート（産業機械事業）

29.3期の売上・利益は当初計画を下回るが、増収・増益基調を維持



財務目標のアップデート（素形材エンジニアリング事業）

電力・原子力製品が牽引し、当初計画比大幅な増収・増益を計画



A hand is shown from the bottom right, holding a glowing, semi-transparent digital globe. The globe is composed of a grid of white dots and lines, representing a network or data structure. The globe is illuminated from within, creating a bright, warm glow. The background is a soft, out-of-focus blue and green, suggesting an outdoor setting like a park or waterfront. The overall aesthetic is clean, modern, and high-tech.

JSW 日本製鋼所